

# 第5学年〇組 国語科 学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時  
学 級：第5学年〇組  
場 所：〇〇市立〇〇小学校5年〇組教室  
授業者：〇〇 〇〇

- 1 単元名（題材名） 「ずばり！」この本おすすめ  
～5年生の友達が本を読みたくなる推薦を考えよう～  
（「本は友達 広がる、つながる、わたしたちの読書」光村図書 五 銀河）

## 2 単元（題材）の目標

- おすすめの本を推薦するために多様な視点から読書すると共に、読書の魅力に気付くことができる。  
（知識及び技能(3)オ）
- ◎複数の本や文章を読み比べながら、推薦したい本の内容や特徴を基にして、自分の考えをまとめることができる。  
（思考力、判断力、表現力等 読むこと(1)オ）
- 相手や目的に応じて推薦したい本を選び、その本についての魅力や自分の考えをまとめていこうとする。  
（学びに向かう力、人間性等）

## 3 単元について

### （1） 児童生徒の実態

まず、本学級で読書に関わってアンケートをとった。以下がその結果である。

①読書は好きですか。

- A 好き。…17人  
B どちらかというとき好き。…10人  
C あまり好きではない。…8人  
D 好きではない。…0人

②いろいろな種類の本を読みますか。

- A 読む。…12人  
B どちらかというとき読む。…12人  
C あまり読まない。…8人  
D 同じ種類の本しか読まない。…3人

この結果から、多くの児童は読書が好きだと感じているが、一方で読書があまり好きではないと答えた児童や、様々な種類の本を読むことは少ないと答えた児童が一定数いることが分かった。また、それぞれの項目について、その理由も記述させた。そこから、「読書が好き。」「いろいろな種類の本を読む。」という回答に至った理由について見たところ、読書を通じて自分の考えが広がったり深まったりする学びの自覚がある児童はほとんどいないということも分かった。

また、5年生において、学校図書館を利用して読書をする児童数が減っている実態があり、5年生同士で本を推薦し合う活動を通して、読書の幅を広げるとともに、読書が自分の考えの形成に役に立つということを実感させたいと考えている。

また、本学級においては、学習に対してつまずきが見られても、それを解決しようとする意欲が弱い児童や、他者と関わり合って学ぶ力に乏しい児童が一定数いる。そのために、児童が自分の学んだことや身に付けたことを他者と共有し、学びを自覚できるように、推薦する相手や目的が似ている児童からなる少人数のグループ（詳細は、後述する。）に分かれて学習を進めていきたい。同じグループの友達の推薦内容や読み解き方から学べるようにするために、互いの推薦する本についても並行して読書をさせる。友達との関わりの中から自分の考えを形成したり、読書の幅を広げたりする児童の姿を目指したい。

### （2） 教材について

本教材「本は友達 広がる、つながる、わたしたちの読書」は、本を薦めるための方法を知り、相手や目的に応じて本を推薦するという教材である。

本学習の『ずばり！』この本おすすめ ～5年生の友達が本を読みたくなる推薦を考えよう～は、学習指導要領の〔知識及び技能〕第5学年及び第6学年の「(3) 我が国の言語文化に関する事項 オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。」及び、〔思考力・

判断力・表現力等]「C 読むこと」第5学年及び第6学年の「(1)オ 文章を読んで理解したことに基  
づいて、自分の考えをまとめること。」の指導事項を重点的に取り上げて指導する単元である。

本単元で仕組む言語活動は、特に「ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、  
調べたり考えたりしたことを報告する活動。」を具体化し、「複数の本や文章を読み比べながら、推薦し  
たい本の内容や特徴を基にして、自分の考えをまとめることができる。」という目標を設定して活動を  
進めたい。

なお、選書会で推薦する本については、相手や目的に応じて、物語や伝記、科学読み物、図鑑など様々  
な図書を扱うことにする。

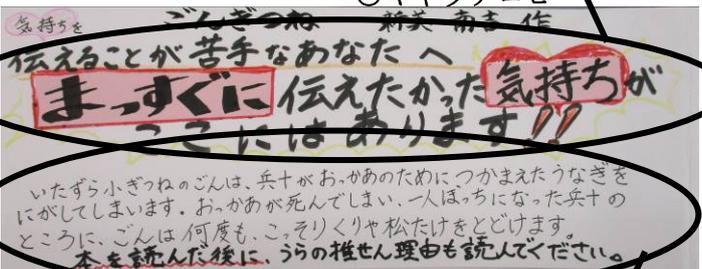
### (3) 指導について

学校図書館を利用して読書をする5年生児童が少ないことに着目し、5年生同士が本を推薦し合うと  
いう活動が児童にとって必然性のあるものにする。単元のゴールには、学校行事のPTA選書会を位置  
付けて、5年生児童が作成した本の帯を本と共に並べることで、児童にとって身に付けた言語の力を生  
かせる場として設定した。単元の終了後、選書会において児童が選んだ本が実際に購入されて、学校図  
書館の蔵書となり、児童が作成した本の帯と共に学校図書館に並ぶ。そうすることで、5年生児童の学  
校図書館の利用者数を増やすことが児童の最終的な目標となる。

単元に入る前に、選書会に並ぶ本のリストを児童に配付して、題名から自分が推薦したいと思う本を  
リストアップしておく。市立図書館から可能な限り該当する本をピックアップして、教室にいつでも読  
めるように置いておく。

第一次では、ゴールイメージを明確にするために、教室でミニ選書会を行う。本の帯があることで本  
を読みたくなったり、選びたくなったりするという体験をさせたい。そこで、複数のモデルを通して、  
本を「紹介すること」と「推薦すること」の違いに気付かせる。推薦するためには、自分の目的だけで  
はなく、相手の目的を考慮する必要があることを押さえる。また、選書会において本を推薦することが、  
学校図書館の利用者を増やし、ひいては自分達の豊かな読書生活につながるということにも気付かせた  
い。そして、推薦するためには、推薦相手や目的に応じて本の内容や特徴を基にして、推薦理由や推薦  
内容として自分の考えをまとめる必要性があることに気付かせたい。ここで、推薦(レコメンド)する  
ときに気を付けることを見つけさせて、以下のように「レコ技」としてまとめていく。

**帯(モデル)**



○キャッチコピー

○推薦理由↓

○おすすめどころ

**レコ技** : 本を推薦する時に気を付けること || 読む視点

- おすすめどころ
- キャッチコピー
- 推薦理由

推薦相手に伝えるように  
どの内容や言葉を選ぶ?  
どこをかくすといひ?

推薦相手に  
ぴったりの言葉

推薦理由  
その作品にしかないよさ

・どんな人に読んでほしい?  
・本の「何」を読んでほしい?

単元において身に付けさせたい力を、児童が自分の「なりたい姿」として描いた上で、学習を進めて  
いきたい。

第二次では、推薦したい相手や目的及び本を決めた後に、相手や目的及び推薦したい本の種類に応じ

て少人数のグループを作る。同じ本を選んでいる児童は、内容を共有できるため同じグループにする。相手や目的、本を決めることが難しい児童に対しては、友達の目的や相手を確認した上で本を選んでよいこととする。複数の本を読み比べながら、推薦する本の内容や特徴を基にして自分の考えをまとめていけるようにする。また、読書の魅力に気付いたり、読書の幅を広げたりしている児童の姿を取り上げて、自分の本の読み方の変化や新たな発見、読書に対する気持ちの変化など、毎時間の振り返りにおいて、自分の考えをまとめられるようにする。

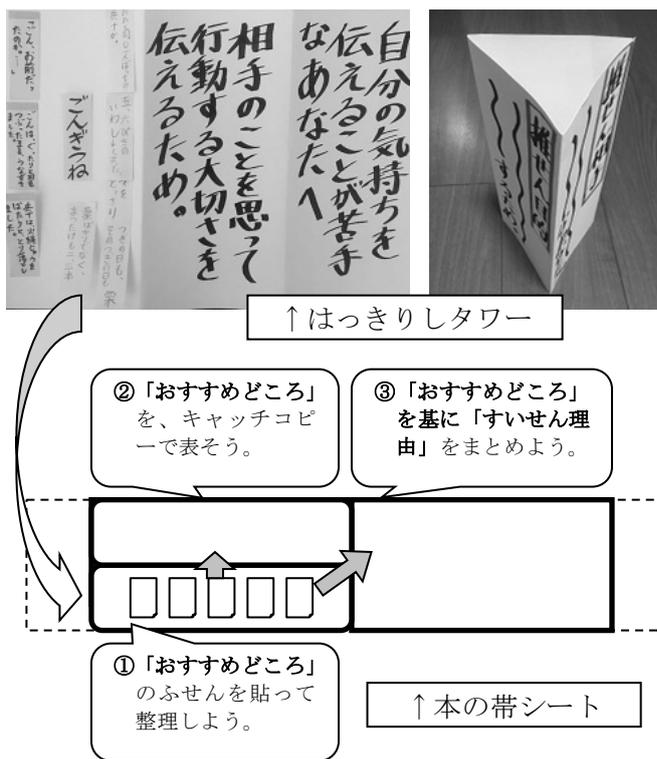
第三次では、違うグループの友達と本を推薦し合い、実際にその本を読むことで、児童が読書の幅を広げたり、読書の魅力に気付けるようにしたい。

#### (4) 「読み解く力」に関わる目指す児童の姿とその育成のための手立て

まず、「必要な情報を確かに取り出す力」に関わって、推薦したい相手や目的に応じて本を選び、本から「おすすめどころ」(推薦箇所)を読み解く児童の姿を目指したい。読み解いた「おすすめどころ」を付箋に書き出し、「はっきりシタワー」(右写真)に貼っていくことで、相手や目的にぴったりの「おすすめどころ」を読み解けるようにする。

次に、「情報を比較し、関連づけて整理する力」に関わって、複数の本を読み比べながら、推薦相手や目的と「おすすめどころ」を関連づけて整理することができる児童の姿を目指したい。「おすすめどころ」を書き出した付箋を「はっきりシタワー」に貼ることで、整理できるようにする。学び合う場面においても、友達との話し合いを通して、推薦相手や目的によりふさわしい「おすすめどころ」について検討する姿を目指したい。また、「はっきりシタワー」に貼り付けた付箋を「本の帯シート」に貼り替えることで、自分が見つけた「おすすめどころ」を整理することができるようにする。その際には、なぜその付箋を「おすすめどころ」に取り入れるのかを考えさせることで、その後、「おすすめどころ」を基にして、キャッチコピーを考えたり、推薦理由としての自分の考えを表したりすることができる児童の姿につなげたい。

最後に、「自分なりに解決し、知識を再構築する力」に関わって、自分の考えをキャッチコピーや推薦理由の中にまとめることができる児童の姿を目指したい。「その本にしかないよさ」や「本の『何』を読んでほしいのか」について考えられるようにするために、教師が「ごんぎつね」のモデルを提示する。



#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・推薦相手や目的にふさわしい本を推薦するために、多様な視点から読書したり、読書の魅力に気付いたりしている。(3)オ)	・推薦相手や目的にふさわしい本を推薦するために、推薦したい複数の本や文章を読み比べながら、本の内容や特徴を基にして、「おすすめどころ」を読み解いたり、推薦理由や推薦内容として自分の考えをまとめたりしている。(Cオ)	・見通しをもって学習に取り組む中で、推薦したい相手や目的を明確にして進んで読書したり、その本についての魅力や自分の考えをまとめていこうとしたりしている。

#### 5 単元の指導計画 (全5時間)

次	時	主たる学習活動	指導上の留意点	評価規準
一	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元のゴールイメージをもつ。</li> <li>学習計画を立てて、単元の見直しをもつ。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 教師のモデル、活用したワークシートなどを見せる。 <input type="checkbox"/> 推薦と紹介の違いに気付かせて、推薦(レコメンド)する時に気を付けることを「レコ技」としてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>見直しをもって学習に取り組もうとしている。</li> </ul>
二	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書経験や読書記録をふり返ったり、本を読んだりして、推薦したい相手や目的を明確にして、推薦する本を決める。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 「ごんぎつね」のモデルを通して、推薦する相手や目的にぴったりの推薦したい本を決められるようにする。 <input type="checkbox"/> つまづきやすい児童には、今まで読んだ教科書教材や、生活の中で興味や関心のあることに関わる本を薦めておく。 <input type="checkbox"/> 一定の期間を設けて、本を読む時間を確保しておく。 <input type="checkbox"/> 推薦相手や目的が明確になるように「はっきりシタワー」を作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>推薦する相手や目的にふさわしい本を推薦するために、多様な視点から読書している。(知技(3)オ)</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>本を読んだり、話し合ったりして、自分の推薦したい相手や目的にぴったりの「おすすめどころ」を本から見つける。 (本時3/5)</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 既習の「ごんぎつね」のモデルを教師が提示することで、相手や目的に応じた「おすすめどころ」を読み解くことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 「おすすめどころ」を明確にするために、付箋に書き出して、「はっきりシタワー」に貼るようにする。 <input type="checkbox"/> <u>推薦相手や推薦目的が似ているグループで話し合いながら、推薦する相手の立場に立ち、「おすすめどころ」を比較したり検討したりできるようにする。</u> <input type="checkbox"/> グループでの話し合いを受けて、再度自分の本を読み解く時間を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>推薦する相手や目的にふさわしい本を推薦するために、推薦したい複数の本や文章を読み比べながら、本の内容や特徴を元に、「おすすめどころ」を読み解いている。</u> (Cオ)</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>「おすすめどころ」を基にして、キャッチコピーを考えたり、推薦理由に自分の考えをまとめたりする。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 既習の「ごんぎつね」のモデルを教師が提示することで、本の帯シートに自分の考えをまとめられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>推薦する相手や目的にふさわしい本を推薦するために、本の内容や特徴を基に、推薦理由や推薦内容として考えたことをまとめている。</u>(Cオ)</li> </ul>
三	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の本を、他のグループの友達に推薦する。推薦された本を読む。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 推薦する前後で本に対する見方や考え方が変わるということを「ごんぎつね」のモデルを通して気付くことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>推薦することで、多様な視点から読書したり、読書の魅力に気付いたりしている。</u>(知技(3)オ)</li> </ul>
7月		選書会で本の推薦をする。→本の帯を読みながら、本を手にとって読む。		
9月		学校図書館に、本の帯と共に購入した本を並べる。→学校図書館を利用して、読書する。		

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

## 6 本時の目標(本時:3/5時間目)

複数の本や文章を読み比べたり、友達と話し合ったりすることで、推薦したい相手や目的にぴったりの「おすすめどころ」を見つけることができる。

## 7 本時の評価規準

相手や目的にふさわしい本を推薦するために、推薦したい複数の本や文章を読み比べながら、本の内容や特徴を基にして、「おすすめどころ」を読み解いている。

(思考力・判断力・表現力等 読むこと(1)オ)

## 8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
	1. 課題を見つけて、見通しをもつ（5分） ・自分の推薦相手や目的、推薦したい本を確認して、学習の流れを知る。  2. めあてをもつ（3分）	・既習の「ごんぎつね」のモデルを教師が提示することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
	すいせん相手や目的にぴったりな「おすすめどころ」を本や文章から見つけられるようになる。	
	3. 本を読んで、自分で考える①（7分） ・推薦相手や目的にぴったりかどうか、自分の推薦したい本から「おすすめどころ」付箋に書き出す。  4. 共に学び合う（15分） ・相手や目的にぴったりな本や「おすすめどころ」について確かめるために、複数の本を読み比べたり、グループで話し合ったりする。  5. 本を読んで、自分で考える②（8分） ・相手や目的にぴったりな「おすすめどころ」を再度、推薦したい本から見つける。  6. 学習を振り返る（7分） ・今日はっきりしたこととなりた姿に近づけたかどうかを振り返る。 ・次時の学習の見通しをもつ。	・推薦相手と目的にぴったりな「おすすめどころ」を見つけることができるようにするために、「はっきりシタワー」（三角柱の卓上カード）と付箋を用意する。  □ <u>相手や目的にふさわしい本を推薦するために、複数の本を読み比べながら、本の内容や特徴を基にして「おすすめどころ」を見つけている。</u> ・ <u>相手や目的にぴったりな「おすすめどころ」を見つけて、それらを比較したり、検討したりする話し合いをするために、教師が話し合いのモデルを示す。</u> ・グループでの話し合いを受けて、再度自分の本を読み解かせるようにする。  □ <u>推薦する相手や目的にふさわしい本を推薦するために、本の内容や特徴を基にして、「おすすめどころ」を明確にしている。</u>  ・「本の帯シート」に「おすすめどころ」の付箋を貼り替えるところを見せて、その理由について記入したモデルを提示することで、次時の学びにつなげる。

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

## 9 授業参観の視点

- ① 複数の本や文章を読み比べて、相手や目的を明確にして「おすすめどころ」を読み解くことができたか。また、その手立てや支援は適切であったか。
- ② 共に学び合う場面の中で、相手や目的に応じた「おすすめどころ」を比較したり、検討したりする話し合いになっていたか。